

ウェルウォーク通信

～総合リハビリテーションセンターみどり病院様の取り組み紹介～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。
今回は、総合リハビリテーションセンターみどり病院様の『患者様のリクルート活動』についてご案内致します。

総合リハビリテーションセンター みどり病院（新潟県新潟市）

- ・病床数：112床（回復期リハビリテーション病棟 2 病棟）
- ・患者層：脳血管疾患52%、運動器40%、廃用症候群8%（2022年）
- ・PT数：46名（ウェルウォーク操作が可能なPT10名）



ウェルウォークの運用状況

- ・導入時期：2021年11月（WW-2000導入）
- ・対象疾患：脳血管疾患、脊髄損傷、※脊髄小脳失調症3型、※HTLV-1（※トレッドミル練習のみ）
- ・ウェルウォーク練習頻度：2～3単位/日、週6日以上

ウェルウォーク運用における取り組み

WW導入当初はWWチーム（WW Dr.やリーダーPT）からの患者リクルートが主でしたが、「WWを開始するタイミングが遅れてしまった、WWを実施すれば良かった。」などの問題点が生じていました。そこで装具作製段階に着目し、当院で利用している装具選択フローチャートにウェルウォークを追加しました。

フローチャート改定

鵜飼リハ様のWW通信（第54号）を参考にウェルウォークの適応を判断し、基準から逸脱する場合に長下肢装具の作製を検討するというフローに改定しました。

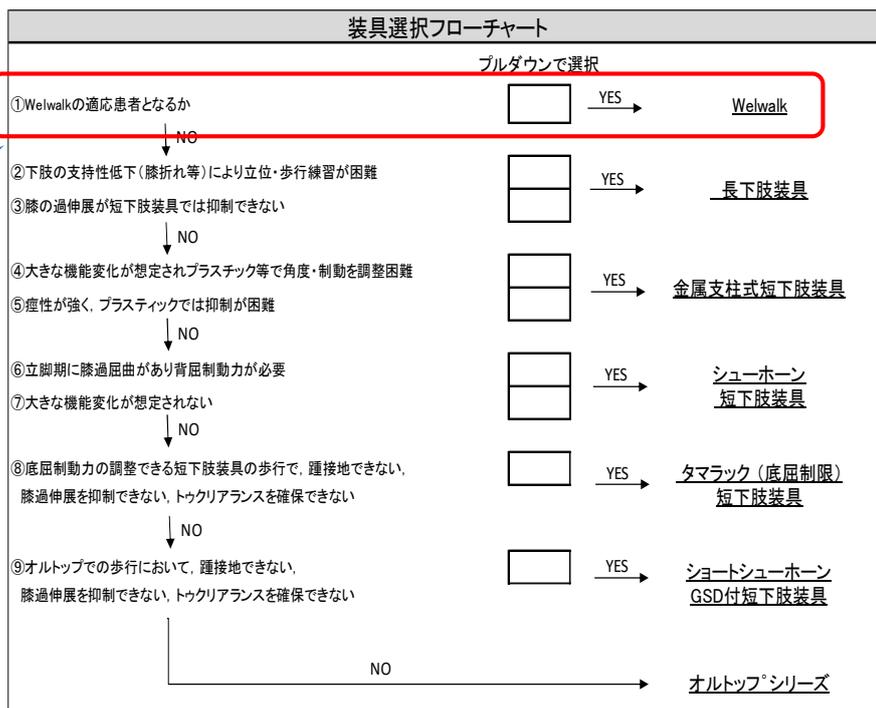
フローチャート改定後の変化

【ウェルウォークの利用実績】

2021年 41例 ➡ 2023年 **58例**

【長下肢装具作成本数】

12.7本 ➡ **4.1本**（年間平均）

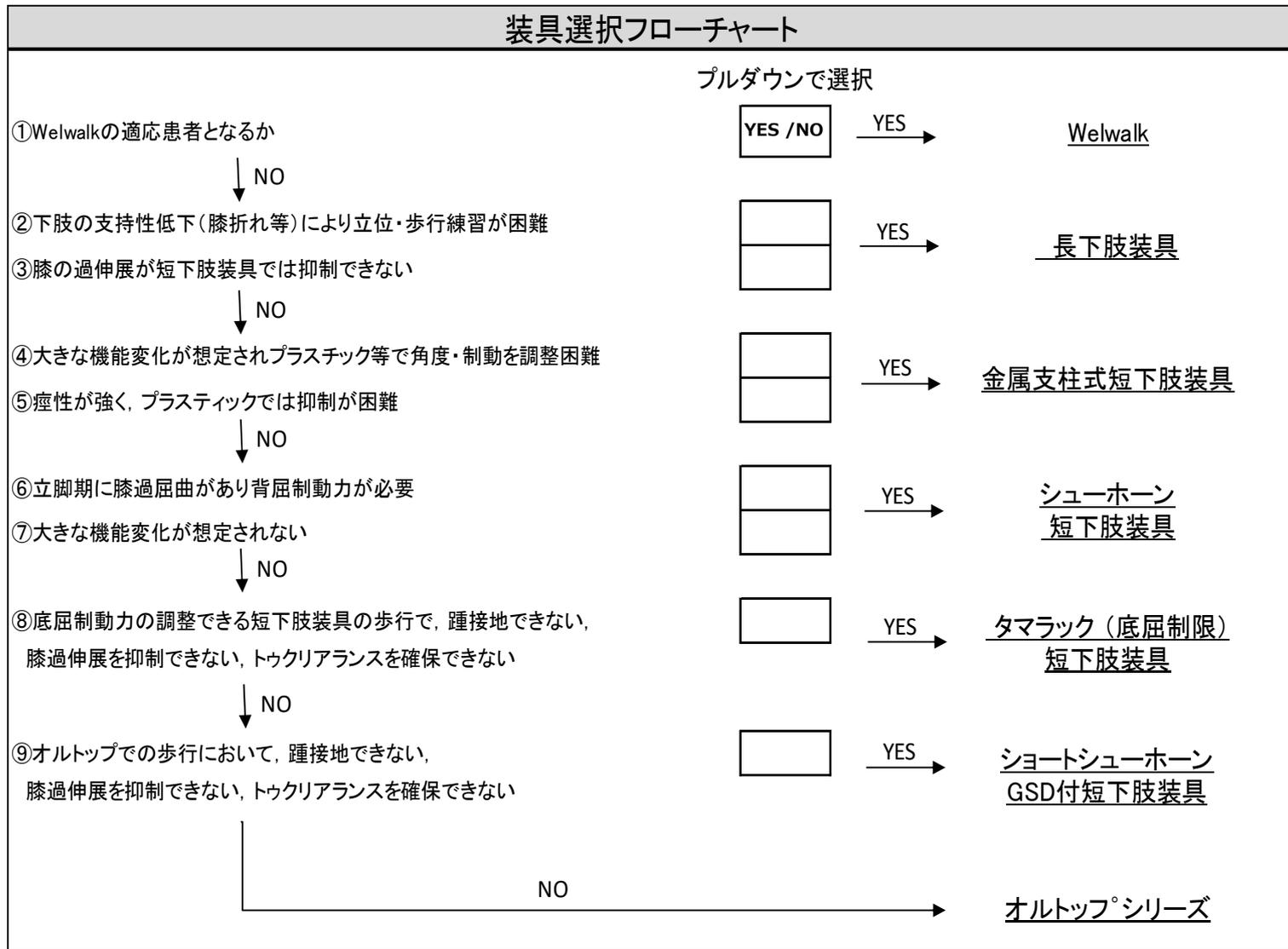


※ 2 ページ目に拡大版を記載しております。

ウェルウォーク通信

～総合リハビリテーションセンターみどり病院様の取り組み紹介～

装具選択フローチャート



リーダーPTより

フローチャートの改定によりウェルウォーク利用者の増加につながりました。また、長下肢装具を作製する以前にWWの適応を確認することができ、長下肢装具の作製本数が減少しました。

新潟県では回復期リハビリテーション病棟入院中に治療用と更生用装具の2つを作製する事が難しい実情があります。そのため、治療用装具を作製する段階で更生用を見据えた検討を行うことが少なくありません。長下肢装具を入院早期の段階で作製すると、退院時には適応しない装具になってしまうという問題が生じる事もあります。厚生用装具が短下肢装具となる患者様においては、長下肢装具が必要な時期にウェルウォークを使用することで、治療用装具としての長下肢装具を作製する必要がなくなり、最適な厚生用装具の作製や経済的負担の軽減にも寄与すると思われます。

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口<clinical-ww@mail.toyota.co.jp>